



7大陸を 駆け抜けた

ノーランニング、ノーライフ!

走れない人生なんて考えられない。生きがいは人それぞれだが、高橋千恵さんにとっては、まさに『走る』ということが生きる喜びだ。

「嫌なことがあっても走れば忘れられるし、気持ちが上がって前向きになれる。今度はこの大会を走ろう、そのために練習しようって目標を決めると、生きる活力になりますね」

思い出に残っているマラソン大会はと聞くと、「サハラマラソン。あとは南極マラソンかな。次の目標は高知龍馬マラソンですね。走れることに感謝しながら、無理せず続けていきたい」

砂漠から雪と氷の世界まで。笑顔で駆け抜けた高橋さんはチャーミングに笑った。



古希に結成して12年 コキーズ

いまや“傘寿一ズ”? 衰えぬ歌声を届ける

結成は平成18年のこと。メンバーそれぞれが古希(70歳)に近い年齢だったことから、コキーズというグループ名が付いた。「元気で、明るく楽しく、生涯青春」をモットーに掲げ、童謡、唱歌、昭和の流行歌、ムード歌謡まで幅広く歌い上げる。

「歌は生きる力を与えてくれる。歌に出会い、仲間に出会い、新しい世界が広がりました」と、メンバーは声をそろえる。

6人の若々しいまなざしは、新しいことにチャレンジする場所があり、そこに仲間がいるからこそ。美しい男声コーラスの四重奏が、いままさに青春を謳歌しているようだった。



元気の秘訣は

トーク& ウォーク

歴史の道を後世まで。塩の道の名物案内人

地域の歴史に明るい公文照さんは、家業の傍ら土佐塩の道の案内人を務めている。足取り軽く山道を上り、道すがら、参加した人たちにさまざまな話題を提供する。その弁舌は滑らかだ。「塩の道にまつわる歴史の話や自然の話はもちろんします。でも、せっかく物部まで来てくれたのだから、他にもいろいろな名所や名産品の話も話してあげたいと思って。地域の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいからね」

前向きに楽しみながら、一日一日を大切に生きよう。この年になって、その思いが強くなってきたという。一つひとつ峠を越えて行くように、公文さんはその健脚で人生という道を歩く。



生涯現役

終わりのない職人の道を歩み続けて

染物一筋の三谷仁志さんがこの世界に入ったのは、昭和28年。高校を卒業してすぐ、父の元に弟子入りした。それ以来7度目の年男となるこの年まで、現役を貫き職人として研鑽を積んできた。数年前に会社の代表を息子に譲ったものの、いまでも変わらず現場に立ち続けている。「ここまできたら最後まで。体の続く限りは、^{はけ}刷毛を置かないつもりです」

時代の流れから、染物の世界も変化を求められている。伝統の技法を手に、息子たちとともに、時代に合った新しい染物を開拓しなければならない。三谷さんのその言葉に、手仕事の世界に生きてきた誇りがにじむようだった。

高橋 千恵さん

土佐山田町百石町 / 65歳
ランナー

高橋さんは平成29年9月、コロンビアのマラソン大会に出場し、世界7大陸でのフルマラソン完走を達成! 証明を受けた日本人女性としては、2人目の快挙だという。

コキーズ

土佐山田町 / 平均年齢80歳
コーラスグループ

左から山中逸朗さん・篠原正行さん・三谷誠郎さん・石川健二さん・山崎啓さん・都築康徳さん。5月26日(日)には、第13回定期演奏会を中央公民館で開催。

公文 ^{あきら} 照さん

物部町庄谷相 / 75歳
土佐塩の道 案内人

ガイドと一緒に歩くと、より深く塩の道の魅力に触れられる。3月23日(土)には30*のウォーキングイベントも開催。詳しくは30ページの掲示板を要チェック!

三谷 仁志さん

土佐山田町楠目 / 83歳
フラフ染物職人

今年3月開院予定の新しい高知赤十字病院に、フラフの技術を使って制作されたモザイク画のようなアート作品が飾られる。これも三谷さんの会社が手がけた仕事!